

平成 29 年度 技術情報第 2 号

イネ^{いな}稲こうじ病

平成 29 年 8 月 30 日

静岡県病害虫防除所長

北駿地域で稲こうじ病が多発しています。
収穫物への混入に注意してください。

1 発生状況

8 月中旬に北駿地域で行ったイネの巡回調査の結果、稲こうじ病の発病株率は 6.4% (平年 2.2%)、発生面積率は 70% (平年 29%) と平年よりも発生が多かった。

本病は穂ばらみ期頃の低温・多雨により発生が助長されるため、こうした気候となりやすい富士山麓地域では、発生に注意が必要である。

2 本病の特徴

本病はイネの籾に暗緑色の病粒（菌核）を形成する（図 1）。病籾が収穫物に混入することで、農産物検査で規格外になるなど、品質を大きく低下させる。このため、収穫前に罹病穂を抜き取るなどして、収穫物への菌核の混入に注意する。

収穫時に落下した病粒に含まれる多量の厚壁胞子が土壌中に残り、翌年の伝染源となる。このため、発生ほ場では翌年以降も注意が必要である。

3 防除方法

すでに発病している稲こうじ病については散布できる効果的な防除薬剤はない。本病の薬剤防除は予防散布が基本であり、適期は穂ばらみ期頃である。本年度の発生ほ場では、次年以降も適期に薬剤防除を実施する。稲こうじ病に登録のある主な防除薬剤を表 1 に示した。

防除適期など、防除方法の詳細については、農研機構の「イネ稲こうじ病の薬剤防除マニュアル」を参考にする。

(URL:https://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/files/narc_man_falsesmutofrice.pdf)



図1 イネ稲こうじ病の病粒

表1 イネの稲こうじ病に対する主な防除薬剤¹⁾

登録種類名	FRAC ²⁾ コード	商品名	使用方法	希釈倍数・散布液量	使用時期	本田の使用回数
銅水和剤	M1	ドイツボルドーA	散布	2000倍・60～150リットル/10a	出穂10日前まで	-
銅粉剤		撒粉ボルドー粉剤DL	散布	3～4kg/10a		-
		Zボルドー粉剤DL	散布	3～4kg/10a		-
シメコナゾール粒剤	3	モンガリット粒剤	湛水散布	3～4kg/10a	収穫45日前まで	2回以内
		モンガリット1キロ粒剤	湛水散布	1～1.3kg/10a		2回以内
			無人ヘリコプター ³⁾ による散布	1kg/10a		

- 1) 農研機構「イネ稲こうじ病の薬剤防除マニュアル」を基に作成
(https://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/files/narc_man_falsesmutofrice.pdf)
- 2) 薬剤を作用機構ごとに分類した番号。薬剤耐性菌の発生を未然に防ぐためには、作用機構の異なる剤をローテーションで使用する必要がある。
- 3) 無人ヘリコプターによる農薬散布を行う際には、農林水産省作成の「空中散布等における無人航空機利用技術指導指針」に沿って散布する。

問い合わせ先：静岡県病虫害防除所（TEL：0538-36-1543）

病虫害防除所 HP（URL）：

<http://www.agri-exp.pref.shizuoka.jp/boujo/boujo.html>

病虫害防除基準 HP（URL）：<http://www.s-boujo.jp/>